

学校教育目標	大門大好き いい仲間 進んで学ぼう 元気な子 ○自ら問題を見つけ、進んで解決しようとする子を育てます(知) ○自分も友達も大好きな、やさしい心をもつ子を育てます(徳) ○心と体を鍛え、自分や人の命を大切にすることを育てます(体) ○大門のまちを愛し、学校やまちのために協力して働く子を育てます(公) ○多様性を尊重し、持続可能な社会の実現に向けて行動する子を育てます(開)				
	創立 50 周年 児童生徒数: 551 人	学校長 能登正明 主な関係校: 瀬谷中学校 瀬谷小学校 上瀬谷小学校	副校長 大久保作織	2 学期制	一般学級: 18 個別支援学級: 4

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	瀬谷中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自分自身を高めていく力	瀬谷中学校 瀬谷小学校 上瀬谷小学校 大門小学校	人との関わりの中で、多様性を認め合い、自らを高められる 児童・生徒 ・瀬谷中ブロックの子ども像実現に向けた、小中一貫教育カリキュラムマネジメント ・推進委員会の開催のもと、各部会の組織的な運営と連携 ・学校運営協議会を設置し、地域とともに児童生徒を育てていく体制づくり

中期取組目標	○子どもが生き生きと豊かに学ぶ、笑顔あふれる学校を創ります。 ・「楽しい」「分かる」「できた」を大切にする授業づくりを進め、子どもが学び合いながら自らの学力を向上させていくようにします。 ・一人ひとりが自己有用感をもち、多様性を認め合いながら、楽しく学校生活が送れるようにします。 ・健康な心身をつくるための生活習慣の形成や仲間づくりを進めます。 ・家庭・地域とのつながりを通して、持続可能な社会を築く一員としての視点(SDGs)に目を向けられるようにします。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知 担当 研究推進部	①人とかかわりの中で、課題を発見し、仲間を認め合える児童の育成を目指し、話し合い活動を大切に授業づくりを推進する。②3年生算数少数、4, 5, 6学年の一部教科担任制や専科担当によって指導・評価につながる児童の多面的な見取りを行う。③学習習慣を身に付け、自らの学びを調整する自主学習を進める。
徳 豊かな心 担当 人権福祉交流部	①児童の実態、行事や各教科等との関連を大切に道徳科の授業改善を進める。②人権・福祉教育、運動会等の行事、ペア学年活動、普段の学習を通して、他者の思いを想像する力の育成と自己有用感を高める。③人権研修や人権部からの発信を通して、職員の人権意識を高め、UD化の定着を図る。
体 健やかな体 担当 体育部	①児童委員会の取組を進め、休み時間の活動を充実させ、体力の向上を図る。②スポーツクラブNASとの連携を行い、水泳学習の充実を図る。③元気がぴかぴか週間の取組を工夫し、家庭との連携を深め、児童により良い生活習慣を身に付けさせる。④栄養教諭、養護教諭と連携した健康・保健授業の拡充を行う。
公 未来を開く志・地域連携 担当 ESD大フェス委員会	①ESD部会を新設し、生活科及び総合的な学習のカリキュラム作りを推進し、自ら課題解決をめざす子どもを育成する。②各教科及び学校行事、特別活動、農園活動でもESDの視点とSDG'sを意識した資質・能力を育成する。③地域連携協働活動2年目となるのでコーディネーターを中心に、より地域と連携しながら特色ある学校創りをめざしていく。
いじめへの対応 担当 児童支援不登校対策部	①子どもの様子を日常的に情報共有し、必要に応じてケース会議等を行う。いじめ防止会議やアンケートを通して、全職員で事案の情報共有、対応方法を検討する。②トラブルやいじめ発生時の初期対応を必ずチームで行い、丁寧かつ迅速に対応する環境づくりを行う。③横浜プログラムを活用し、児童相互理解を促すとともに、いじめの未然防止につながる人間関係の構築を行う。
人材育成・組織運営(働き方) 担当 教務部	①校内研究において、学年ブロックがチームとなった共同研究を進める。②話し合い活動のよりよい在り方や仲間を認め合える学級集団づくりについて情報共有を行う。③学年研の時間確保をはじめ、学年主任を中心とした学年経営実現に向け、チーム力を高める。
特別支援教育・児童理解 担当 児童支援不登校対策部	①スタンダードや月目標を全職員が共有し、同じ目線で声かけするとともに、振り返りを意識することで目標の定着を図る。②学校・家庭・専門機関との連携を大切にし、可能な限り情報交換をすることで、子どもたちの安全・安心した生活につなげる。③「子ども学習室」を、だれもが安心・充実した活動を行える場となるような環境づくりを行う。
安全教育・管理 担当 安全部	①避難訓練をより実践的なものとなるよう意識し、災害避難や防犯マニュアルの見直しをする。②子どもたちにとって安全、安心な学校づくりのために、職員安全研修、休み時間の校内巡視を引き続き行う。③安全強化WEEKを通して、子ども自身が登下校の姿を振り返り、よりよくできるような働きかけを行う。
a14 担当	b9
a15 担当	b10